市町村名		座間味村											
	3	<mark>平成30年度</mark>	<b>E沖縄振興特</b> 別	引推進3	交付	金事業(	市町	村分)検	証シー	- <b>ト【</b> 2	公表用】		
事業番号 • 事業名	1	-①	座間味	村海域安全	È隊事	業			21世紀		第3章	<b>〕—3</b> —(1	12)-ア
		<u> </u>		事業実	tár				林計画該		観光リン	ブート産!	業の振興
担当部課名		産業振り	興課	(予定)4		平成24~令	和3年月	<b>沖</b>	職振興基 該当箇			<b>Ⅲ</b> −1−(1	1)
事業内容			・(古座間味ビーチ、阝 セーバー員等を配置		、北浜	ビーチ)にお	いて、崔	見光客が増加	けるシー	·ズン(GW	′∼夏季)の海	<b>菲洋事故</b>	:防止及び安
効果発現年度		Ⅰ当年度	□後年度(	年度)									
実施方法		]直接実施	■委託□□	補助		負担	□その	の他(	)				
			H26年度		H27	年度		H28年度		H29年	度	НЗ	0年度
	予	(a) 当初予算額		,668	12,000				16,201		25,571		21,228
	算	(b) 予算現額		7,500		12,000		16,	201		25,571		21,228
	址	(c) 増減額(b-a)	▲ 8	,168		0			0		0		(
予算額 · 執行額	況	(d) 繰越額	_		-	_				_			
【単位:千円】		A. 計(b+d)		,500		12,000			201		25,571		21,228
(「交付金」+ 「市町村負担」	;	B. 執行済額 		,030		12,000			925		21,957 17,565		21,143
「中間村長担」	5, 次年度繰越額			5,624 9,600			12,	12,740				16,914	
		大平及條略領 「率(%)(B/A)	9	3.7%		100.0%		98	8.3%	85.9%			99.69
	1241	3 1 (70) (5) 10)									33.3.8		
	予算	算の状況の説明	不用額85千円につい	ハて、委託	事業者	<b>省との契約金</b>	額と精算	算金額との差	異となり	ます。			
									<b>'</b> *	dh an			
	H30活動目標(指標)							<u> </u>	達成				
						H27年度		H28年度			9年度	H	H30年度
		7セーバー員等の配 E間味ビーチ 2名(		目標 ( GW期間 7月~10月) (			GW~1 常駐			~10月末 註配置		W~10月末 常駐配置	
	•阿真	ビーチ 2名	<b>31</b> /				-		-			,22.40	
		€ビーチ 2名 、8月 古座間味ビ−	ーチ 1名追加)	実 績 4月24日~10月31日 4 配置			日  4月25日~10月31日  4月   配置			4月24日~10月31日 配置		日~10月31日 配置	
活動目標 (指標)				目標	(		)	) ( )			)	(	,
及び達成状況				口际(				, ( ,				<u> </u>	
				実 績									
	達成状況説明	た。 業務期間:平原	(古座間味ビーチ、 成30年4月23日〜平 ビーチ2名ずつ合計)	成30年10	)月31	日							
		H30成果目标	票(指標)		1	基準値 ( 年度)		H28年度	H29	年度	H30年度		目標値 ( 年度)
				目標	(	)	(	)	(	)	( 水難死亡 事故O件	) (	)
	ライフ O件	セーバー配備期間	引中の水難死亡事故	rb 4±			+				水難死亡事		
				実 績		/					1件		/
成果目標 (指標)	<b>7</b> ↔ →	, +11		目 標	(	)		海洋事故 5止と安全 ) 確保	(防止	¥事故 .と安全 ) 催保	(	) (	)
及び進捗状況		指標】 浴客等の海洋事故	防止と安全確保										
				実 績		/		実施 	<b>月</b>	€施 			
	進捗状況説明		「座間味ビーチ、阿真 客の海洋事故防止と										

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	<b>改善余地の検証</b> (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・GW時期から村内ビーチへ事故防止と安全確保のため昨年度に引き続きライフセーバー員を4月末から10月末まで常時配置したが、死亡事故が発生した。 ・外国人客含め利用客数の多い古座間味ビーチでサンゴの破壊等が見受けられた。	・安全確保(海難事故ゼロ)のためには、入水前にライフジャケットの着用を促す等の安全確認の徹底と、ライフセーバー員はじめビーチスタッフの育成が必要。 ・安全確保、環境保全のための遊泳区域も設定し直す必要がある。 ・多言語での案内やルールの周知を検討する必要がある。
	A44 A B-1140	1 7. + AI

- ・死亡事故ゼロを目標に、関係機関と連携し、ライフセーバー人材の確保及び水難救助講習会による人材の育成に努め、より安心安全な海水浴場にするための体 制構築を図る。
- ・遊泳者の安全確保、サンゴの保護のため新たに遊泳区域を設定する。 ・対営船舶での張り紙やHP等で遊泳上の注意事項を多言語で周知徹底。さらに、入水前に環境への配慮を促すことで、サンゴの保護にもつなげる。

**資金の流れ** (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
21,143	21,143	16,914	4,229	

委託 合同会社座間味ビー チパトロール 座間味村 21,143千円 21,143千円 (4/23~10/31)

業務内容(3ビーチ)

- ・監視、パトロール
- ・事故防止のための安全指導、環境保全
- ・遊泳禁止条件、禁止区域での警告、指 導

資	評価	点 検 項 目	評価に関する説明					
使金	0	支出先の選定方法は妥当か。	│ │○委託事業者は資格等で選定しており、また水難救助と					
の流点れ	0		う特殊性から妥当であったと考えている。 〇期間、人数から鑑み適正な規模であった。					
検評	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目					
価目・	0		的に即し、必要なものであったと判断した。					

市町村名	座間味村												
	平成30年度	<b>を沖縄振興特</b> 別	別推進交	付金事業	市町村	寸分) 検	<b>証シ</b> -	- <b>-</b>   [:	公表用】				
事業番号 · 事業名	1-2	座間味村加	バんばる観光	支援事業		沖線	<b>電21世紀</b>	!ビジョン	第3章	章-3-	-(12) -ア		
- 字木切	[					<del>_</del>	本計画該	当箇所	観光リ	ゾート	産業の振興		
担当部課名	産業振	興課	事業実施(予定)年原		和3年度	沖		振興基本方針 該当箇所 Ⅲ—1—(1)					
事業内容	観光客誘致とリピーター	確保のため、既存イ	ベントの強化	拡充及び県内タ	<b>卜周知活</b> 動	動、県外水	族館等で	の誘致活動	動等を実施 <sup>-</sup>	する。			
効果発現年度	■当年度	□後年度(	年度)										
実施方法	□直接実施	■委託	補助	□負担	□その	他(	)						
		H26年度		127年度	H	128年度		H29年度			H30年度		
	(a) 当初予算額 予 (b) 予算理額		,674	<u> </u>			5,700		20,850		20,050		
	算 (0) 了异境做	29	,674	17,000		16,7		,			11,050		
	の 状 (c) 増減額 (b-a)	_	0	0			0		0		▲ 9,000		
予算額 · 執行額	(d) 繰越額 A. 計(b+d)		074	- 47,000			700		00.050				
【単位:千円】			,674	17,000			5,700		20,850		9,792		
(「交付金」+ 「市町村負担」	B. 執行済額 		,718	11,823 9,458			9,960 7,967		16,550 13,240		7,834		
ベース)	次年度繰越額	22	,/10	9,438			7,907		13,240		7,834		
	執行率 (%) (B/A)	9	5.7%	69.5%		ŗ	59.6%		79.4%		88.6%		
	予算の状況の説明	イベント(補助事 島で行っているホエ 県外PR事業(委託)	<u></u> 業)では、全写 ールウォッチ	■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■	ナープニン	付したがヨ <sup>,</sup> グセレモニ	 ットレース ニーを村内	で行った		円不要	ウ、例年沖縄本		
		水/II (子木(安配/	IC DU CIAC	元  庄・初  八〇ノ  庄/		水头爬飞		状況	112//XBRC	,,_0			
	H30活動目標	票(指標)		1107年1	±	1100			00年曲	$\overline{\mathbf{T}}$	1100左帝		
			-	H27年	~	H284			29年度		H30年度		
	各種イベントへの支援		目標	( イベント支	爰5件 )	(イベント)	支援6件)	(イベン	ト支援7件	) (	イベント支援7件)		
****			実 績	イベント支持	爰3件	イベント	支援3件	イベン	ト支援6件	1	ベント支援7件		
活動目標(指標)			目標	(イベント実)	施2箇)	(イベン	ト実施	) ( イベ	ント実施	) (	イベント実施 )		
及び達成状況	県外PRイベントの実施		イベント実施	2箇所	イベン	ト実施	イベ	ント実施		未実施			
	達												
	成 を種イベントの支援については7件すべてのイベントに補助金を交付したがヨットレースは台風の影響により中止となった。 準備等にかかった経費を補助した。 県外PR活動としては、開催場所を確定するのに時間を要してしまい未実施となった。										止となったが、		
	H30成果目	票(指標)		基準値 (年度)	F	128年度	H2	9年度	H30年度		目標値(年度)		
			目標	(	) (	)	(	)	( 111,000 人以上	0 )	( <del>+12</del> )		
	入域観光者数:111,000.	人以上	実績		10	03,505人	108	3,467人	98,631				
						42紙		10艇 、	, 40艇				
	【参考指標】 サバニ帆漕レース:参加	1艇40艇 700名	目標	(	) (	720人		00人	700人				
	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		実 績			39艇 720人	6	86艇 90人	35艇				
	【参考指標】 ・ヨットレース:参加艇50:	騈 550夕	目 標	(	) (	35艇 500人		I5艇 00人	<sup>( 55艇</sup> 550人		( )		
成果目標		ME 000-1	実 績			45艇 600人		59艇 50人	台風の影 より中.				
(指標) 及び進捗状況	【参考指標】		目標	(	) (	850人 )	( 7	00人 )	( 700人	. )	( )		
	・座間味島祭り 700名		実 績			760人	7	50人	740人				
	【参考指標】		目標	(	) ( 7	000人 )	( 70	000人 )	( 7000人	(	( )		
	・ホエールウォッチングフ	7ェスタ 7000名	実 績		1	3950人	13	450人	13222.	人			
	【参考指標】		目標	(	) (	実施 )	( 5	実施 )	(実施	)	( )		
	・県外水族館等でのPR	舌動の実施	実 績			実施	3	実施	未実施	包			
	・イベントを充実	よる度重なる船舶欠 ・拡充して開催したこ 関しては過去最大の	とにより、観光	光客及び参加者	が増加が	「みられ、名	・イベント		直もおおむれ	ね達成	した。		

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	<b>改善余地の検証</b> (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・各イベントの目標数値をおおむね達成した。イベントが回数を重ねてきたことや村HP、フェイスブック等などのSNSでの告知の効果が表れてきていると考えられる。・ヨットレースに関しては予備日などを設けていなかったため中止になったが、500人以上の入域を失うこととなり、毎年楽しみにしてくれる参加予定者を落胆させた。・県外PRの未実施については、これまでも特別展を開催したことのある本土の水族館に実施を申しいれたが、日程調整ができず未実施となった。	要してしまい未実施となった。次年度に向け早急に水族館と調整を行う必要
	A 40 1140	

・サバニ搬漕レース、ヨットレース、ケラマブルーカップといった海域を利用するイベントについては、悪天候時の予備日の設定や、当日の海域の状況が本来のレースコースでは厳しい場合での調整など、事前に実行委員会が関係業者を含めてあらゆるケースを想定し方策を決めておく。

県外PR活動については、開催候補地への早期申し入れが重要であるため、平成31年度の開催候補地とすでに調整を行っている。

**資金の流れ** (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
9,792	9,792	7,834	1,958	0

「各実行委員会へ補助」 ケラマブルーカップ実行委員会 サバニ帆漕レース実行委員会 座間味村 補助金 ヨットレース実行委員会 9,792千円 9、792千円 座間味島祭り実行委員会 ファン感謝月間開催実行委員会 ホエールウォッチングフェスタ開催実行委員会

資使金	評価	点 検 項 目	評価に関する説明						
途の流れ、	0		〇受益者である各イベントの実行委員会は3割以上負担し <sup>-</sup>						
	0	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	おり事業内容や事業目的から判断して妥当であると考える。 〇予算規模は作業規模に見合った範囲内で設定しており妥						
評費価目	0	受益者との負担関係は妥当であるか。	当である。 ○費目、使途については清算段階で検査を実施しており、目						
-	0	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	的に即し、必要なものであったと判断した。						

市町村名		座間味村												
	平月	戊30年度	<b>E沖縄振興特</b>	別割	生進る	を付金事	業 (r	<b>节町</b> 木	対分)検	証シ	- <b>-</b>   [-	公表用】		
事業番号	1-3		座間味	村観	光受入技	処点事業					紀ビジョン	第	3章-3·	ー(2)-イ
* 李木伯					nter eller eden	<u></u>			<del>_</del>	本計画語	該当箇所	市場特性	生に対応の原	応した誘客活動 展開
担当部課名		産業振り	興課		事業実活 予定)年		24∼숙	令和3年原	<b>美</b>	縄振興基 該当6	基本方針 箇所		<b>Ⅲ</b> −1	-(1)
事業内容			業務とタイムリーなき こ向け、企画立案と											ぐに行い、外国
効果発現年度	■当年	年度	□後年度(	白	度)									
実施方法	口直拍	妾実施	□委託 I	■補貝	■補助 □負担 □その他(					)				
			H26年度			H27年度		H	28年度		H29年			H30年度
	₹	当初予算額		19,755			000			14,252		19,734		18,282
	算 (ロ)	予算現額 増減額(b-a)		19,755		16,	000		14	4,252		19,734		18,282
予算額・ 執行額 【単位:千円】	状 /』、	骨減額(D=a) 繰越額	_	- 0			-			0		0		
	流 二	A. 計(b+d)		19,755		16,	000		14	4,252		19,734		18,282
	B. ‡	執行済額		19,000		13,	489		11,			16,303		16,235
(「交付金」+ 「市町村負担」 ペース)	うち3	交付金充当額		15,200		8,	061		!	9,097		13,042		12,988
~~~/	次年	度繰越額												
	執行率(%)(B/A) 9			96.2%	96.2% 84.3%					79.8%		82.6%		88.8%
	予算の	状況の説明	不用額2,047千円1	こつい	ては、タ	キ済費、イベン	ノト 周矢	印活動旅	で費、スキ	ルアップ	講座報償費	貴、燃料費の	残によ	るものである。
		H30活動日本	亜(指揮)							達月	<b></b>			
	H30活動目標(指標)					H2 <sup>-</sup>	7年度		H28	年度	Н	129年度		H30年度
	観光案内所開設年中無休(台風時等閉鎖)				目標	,	65日	)	( 36	5日	1	365日	) (	365日 )
					実績	暴風警	362日 暴風警報時閉鎖		暴風警報 対応	時は電i のみ	舌 暴風警 対	報時は電話 対応のみ		風警報時は電話 対応のみ
	村内外観	光客誘客活動	年8回	-	目標	`	( 3回 )				) (			8回 )
活動目標 (指標)					実績		10		5回			6回		40
及び達成状況		従業者向けス ユー開発 2回	キルアップ講座		目標	( ;	( 3回 )		( 5	50 )		) ( 80 )		現メニュー開発 2回 レディックガイド養成 1回 肺蘇生講習会 2回
		ックガイド養成 上講習会 2回	1回		実績		4回		5	50		30		現メニュー開発 2回 レディックガイド養成 1回 肺蘇生講習会 0回
	達成	かた意見交換	ついては年中無休 会を開催し現状説 光客誘客活動8回	₹題を	話し合	い質の向上	につし	ハて取糸	且事例等	を紹介し	た。		宿事	業関係者を集
	況説四	観光事業従業	ャパン、離島フェブ 業者向けスキルア 会、星空観察講習	゚ップ゙゚゙゚	<b>≸座年</b>	5回を予定し	ていた	こが、ノ	ルディック	フウォー	キングベ-	ーシックイン	ストラ	クター養成講
		H30成果目标	票(指標)		/	基準(年)		Н	30年度	F	R1年度	R2年原	芰	目標値(年度)
			れたか (80%以上)る 「一トにより、本事業	<u>≥</u>	目標	(	)	( 満)	足度80% )	(	)	(	)	( )
		こついて検証す			実 績			満足	足度90.3%					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	か(80%以	上)を含め、講	活用できると感じが 習会に参加した観 -トにより、本事業の		目標	(	)	(満足	足度80%)	(	)	(	)	( )
	あり方を				実 績			j ;	未実施					
	<b></b>	スキルアップ請	光案内業務を実施 排座を開催し、観光: 査は未実施となった	客のよ										

### 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)

### 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)

組 മ

・増加する観光客の満足度、利便性向上のため、窓口での案内業務及びアン ケー集計を行い、利便性が図られたかの目標(満足度80%)は達成したが、国 立公園に指定されて以降、海外からの観光客が年々増加しているため、イン バウンド受入れ体制(窓口案内業務及び村商工事業者)の更なる強化、連携 が必要である。

・観光事業従事者へのアンケートについて、観光協会担当職員の退職等もあ り事業の引継ぎが出来ておらず未実施となってしまった。

・年々増加するアジア、欧米系観光客も視野に入れ、村全体の受け入れ体制 の強化及びパンフレット、ルールブック等含め5ヶ国語での案内表記を実施。 船舶での案内等も強化し、更なる満足度の向上を図る。 また、船舶欠航時の観光客への代替案内業務や空路との取次案内の多言

語化も必要となるため、環境省、沖縄県とも連携を図る必要がある。

・未達成の事業やアンケート実施について、事業担当者を明確にすることによ り目標を達成できるよう体制の強化を図る。

### 今後の取り組み方針

・年中無休で丁寧な観光案内業務を継続すると同時に接遇の向上に取り組み、、インバウンド受入体制の強化のための講座を実施することで、事業者の意識と質を 高める。また、閑散期(冬場)の観光客誘致のため同協会だけではなく地元観光事業者及び旅行会社等と積極的に意見交換を行い、アンケートによる意見も取り入 れ、天候に左右されないメニューを開発する必要がある。また、お土産品や飲食面での強化が必要となっているため、引き続き、行政や商工会等との連携を推進し 観光客の満足度向上に努める。

・定期的な意見交換会の開催、事務分掌の見直しを図り、観光協会職員の意識向上に努める。

## 資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象 事業費	7.7.7.7.1 公付金		交付対象 外経費			
18,039	16,235	12,988	3,247	1,804			

座間味村 16,235千円

補助金 16,235千円 ·般社団法人座間味村 観光協会 16,235千円

·窓口案内業務(年中無休) (案内、電話対応、メール対

・情報発信(HP等、マスコミ、メディ

資	評価	点 検 項 目	評価に関する説明							
使金	0		○事業目的を達成するに当たり、村内においては当法人し							
の流 点れ	0	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	なく妥当である。 〇事業内容と予算は適正な規模であった。 〇受益者である観光協会は事業費の約1割を負担しており、							
検評費	0		事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。							
価目 ・	0		〇費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。							

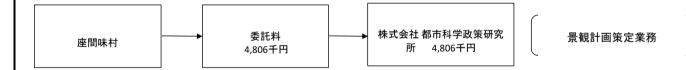
市町村名		座間味村												
	3	平成30年度	<b>モ沖縄振興特</b> 別	リ推進3	交付:	金事業(	市町	村分)	検証	Eシー	- <b>-</b>   [/	公表用】		
事業番号 • 事業名	1	<b>-</b> 4	座間味村	景観計画	策定事	<b>業</b>				21世紀		第3	章-1	-(6)-ア
于木山				古坐中	-bfc				基本	計画該	当箇所	沖縄	6LN	風景づくり
担当部課名		産業振	興課	事業実(予定)名		平成29~令	和元年	度		振興基 該当箇			<b>Ⅲ</b> — 1	<b>-</b> (6)
事業内容		間味村の豊かな自射 度は景観計画の素	然や歴史等の風景を 案を策定する。	生かした観	光地と	こしての魅力	的な景	観形成を	を図る	ため、景	観計画を	策定する。		
効果発現年度		]当年度	■後年度(令和	2年度以降	降)									
実施方法		D直接実施 ———		補助		負担		)他(	)	-		_		
	(a) 当初予算額		H29年度 5.	861	H30±	<b>∓度</b> 4,905		R1年度			R2年原	<b>E</b>		R3年度
	予	(b) 予算現額		861		4,905								
予算額・	算の	(c) 増減額(b-a)		0		0								
	状況	(d) 繰越額												
執行額 【単位:千円】		A. 計 (b+d)		861		4,905								
(「交付金」+	ļ	B. 執行済額 うち交付金充当額		400		4,806								
「市町村負担」 ベース)	ᆣ	次年度繰越額	4,	320		3,844								
	執行率 (%) (B/A)			2.1%		98.0%								
	予	算の状況の説明	不用額99千円は入札	は残である	10							<u> </u>		
	H30活動目標(指標)									達成	状況			
					H30年度				R1			R2		R3
	景観	景観計画区域及び行為の制限等の検討			(	検討実施		(		)	(		) (	)
活動目標 (指標) 及び達成状況	景観	計画の策定及び景	観条例の検討	目標		実施		(		)	(	:	) (	)
	達成 状 庁内会議を4度開催して景観計画 状 委員会を実施し、景観計画の素質 説 景観条例に関しては、策定した景明			を策定し	 f為のf .た。		討した				∞地域のイ	弋表者を集	         	景観計画策定
		H30成果目标	票(指標)			基準値 ( 年度)		H30年度	7H	R1	年度	R2年原	芰	目標値 (R2年度)
				目標	(	)	(	完了	)	(	)	(	)	( )
	景観	計画(案)策定の完	7	実 績				完了						
	景観 魅力 れて	的な観光地としてのいるか(80%以上)を	ケート調査において )景観形成が維持さ 含め、アンケートに について検証する。	目標		)	(		)	(	)	(	)	80%以上
	進捗状況説明	景観計画(案)を また、策定委員	を練り上げるための庁 会を開き、大学教授も									ずつ開催し	<i>t</i> =。	

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	景観計画(案)の住民説明会を行ったが、エリア分けして説明しても繁雑なために、文章だけでは上手く伝わっていないように感じた。	住民説明会では、図などを活用してわかりやすく説明を行ったほうが、より 理解されると思われる。 また住民の景観計画への認知度向上を図るため、HPへの掲載を行うなど周 知活動を実施する必要がある。 景観づくりをすすめていくには景観法の枠内では限界があるため、関係する 既存の法制度と連携した取組が必要である。

H31年度には景観計画を再度住民説明会や庁内会議などを経て策定する。 また、景観条例の策定もH31年度中には実施する。 将来的にはより積極的な規制や誘導を可能にする準景観地区の指定を目指していく。

**資金の流れ** (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象	交付金	市町村	交付対象
	事業費	充当額	負担金	外経費
4,806	4,806	3,844	962	0



資	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
使金	0	支出先の選定方法は妥当か。	・業務の委託は、指名競争入札により契約しており妥当で
の流点れ	0	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	あったと考えている。 ・予算規模は、成果物報告書を受け適正な規模であったと考
検、評費	1	受益者との負担関係は妥当であるか。	えている。 ・
価目・	0	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	t.

市町村名	座間味村												
	平成30年月	<mark>隻沖縄振興特</mark> 兒	<mark>别推進</mark>	交付	金事業(	市町	<mark>村分)検</mark>	証シ <del>-</del>	- <b> -   </b>	公表用】			
事業番号・事業名	2-①	座間味村サン:	ゴ(海のオ	を)育成・	植付事業		沖	縄21世紀	ビジョン	第3	章-3-	-(12)-イ	
* 学术位	ļ				<u> </u>		<del>-</del>	本計画該	当箇所	農林水産業の振興			
担当部課名	産業振	興課		実施 )年度	平成24~令	和3年度	沖	縄振興基 該当箇	Ⅲ-1-(6)				
事業内容	サンゴ礁海域の回復 また、種苗の生産や海・						育成を行う	•					
効果発現年度	■当年度	□後年度(	年度)										
実施方法	□直接実施	□委託  ■	補助		 負担	□その	)他(	)					
		H26年度		H27	年度	ŀ	128年度		H29年	度		H30年度	
	(a) 当初予算額	5	,742		8,766			5,826		6,969		-	7,115
	予 算 (b) 予算現額	5	,742		8,766			5,826		6,969		-	7,115
	の (c) 増減額(b-a)		0		0			0		0			C
予算額・	状 (d)繰越額	_		-	_		_		_			_	
執行額 【単位:千円】	A. 計(b+d)	5	,742		8,766			5,826		6,969		-	7,115
(「交付金」+	B. 執行済額	5	,202		5,364			5,168		6,310		4	4,870
「市町村負担」	うち交付金充当額	4	,161		4,291			4,134		5,048		;	3,896
77,	次年度繰越額		0		0			0		0			C
	執行率(%)(B/A)	9	0.6%	6% 61.2%				88.7% 90.5%					68.4%
	予算の状況の説明	不用額2,245千円は	種苗セン	<b>√ターの</b> 1	役務費や事務	5局の旅	費、消耗品			より大幅に減	ったこ	ことによる。	
	H30活動目	標(指標)		Г	 H27年度	;	H28	達成 ———— 年度	1			H30年度	
				HATE /	1127 - 132						,		
	珊瑚の育苗生産		目	,			(		(	)	(	実施	)
			実									実施	
	珊瑚が減少している海	域への生産した珊瑚	目	標 (		)	(	)	(	)	(	実施	)
	の植付		実績	績								実施	
活動目標 (指標)	【参考指標】		目	標(	1名	)	( 1	名 )	(	1名 )	(	1名	)
及び達成状況	技術者育成 1名		実	績	1名		1名		1名			1名	
	[全 <del>文</del> 化冊]		目	標(	12ヶ月	)	( 12	<b>ヶ月</b> )	( 1	2ヶ月 )	(	12ヶ月	)
	【参考指標】 種苗センター運営 12	2ヶ月	実	績	12ヶ月		124	<del>-</del> 月	1	 2ヶ月		12ヶ月	
	達成 状 沢 説 朝	)サンゴ種苗生産数	i は約400	00本とな		大きく上	こ回ることが	ができた。	また、海	域への植付	も3度		
	H30成果目	標(指標)			基準値 (年度)	ŀ	H28年度	H25	9年度	H30年度		目標値 (年度	
			目	摽 (	)	(	)	(	)	( 1000本	)	(	)
	種苗の植付:1,000本以	上	実	績		+				800本			_
			目	HE (		, ,	2500本 )	/ 25	600本 )	( 2500本	_		
成果目標	【参考指標】 種苗生産		実			_	1000本 )	<u> </u>	00本)	4000本	•		
(指標) 及び進捗状況	【参考指標】		目	_	)		3回 )	( ;	·····································	(	)		)
XO'EBWIN	サンゴが減少している	毎域への植付(回数)	実			_	30			<b>\</b>	/	`	
	サンゴの植付に	aが発生したために死 に関しては目標の1000 以降は植付の場所を	 滅したサ  本まで	・ ンゴもあ こは届か	なかったが、	植付後	産数は前年 も海中で生	 	結果となっ 可能性が高	い状態の種			 寸を

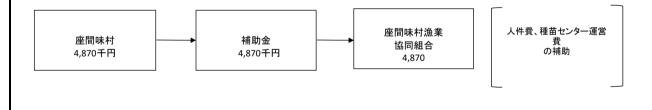
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	<b>改善余地の検証</b> (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	夏場の台風や冬場の波浪などといった気候の変化や観光客のシュノーケリング、ウミガメなどによる植えつけたサンゴへのダメージについて考慮しなければならない。 せっかく種苗生産したサンゴを植え付けても、ダメージを受け死滅してしまうという流れが続いているので考える必要がある。	ー年に一度のサンゴの産卵で、卵の数を大量生産するためにトラップの数を 増やすといった試みを行い、生産できる種苗数の相対数を増やす。
	会後の取り組	み方針

# 今後の取り組み万針

サンゴが減少している地域に育成した種苗を継続で植付するとともに、種苗生産数自体の増加も図るためにサンゴの卵自体を多く確保する必要がある。 今後、外部の海域よりも管理しやすい施設内での親サンゴを拡大させることにより、種苗数が増加していければ植付ダイビングを実施する。

**資金の流れ** (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象	交付金	市町村	交付対象
	事業費	充当額	負担金	外経費
5,418	4,870	3,896	974	548



座間味村漁業協同組合負担分 (交付対象外経費) 548千円

資使金	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
途の の流	0	支出先の選定方法は妥当か。	・事業目的を達成するにあたり、当事業者が適していると判 断した。
点れ 検 、	0	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模は、事業達成にあたり妥当な額であると判断した。 ・受益者である座間味村漁業協同組合は、1割を負担してお
評費 価目	0	受益者との負担関係は妥当であるか。	り、事業内容や負担割合から判断して妥当であると考える。 ・事業の使途については、実績報告書などの書類で確認した
•	0	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	結果、適正であった。

市町村名		座間味村													
	2	平成30年度	度沖縄振興特別	引推進交	付金事業(	市町村	寸分)検	正シー	- <b> -</b>   [	公表用】					
事業番号	3-	-1	座間味村島ちゃび	解消移動手段	设安定化対策事	業		21世紀		第2章	-3-	-(11)ーウ	7		
7**1				事業実施	-			<b>対画談</b>		離島における定住条件の整備					
担当部課名		産業振	興課	(予定)年		令和3年	度沖和	中縄振興基本方針 該当箇所 III-9							
事業内容	離島	交通ネットワーク手	・段の確保として、船(	の欠航時やタ	『イヤ変更時に、	チャーター	ーヘリコプタ	一を利用	月した場合	、運賃の一部	『を支	援する。			
効果発現年度	■当年度 □後年度(			年度)											
実施方法		]直接実施	□委託  ■	補助	□負担	□その		)							
	_	(a) 当初予算額	H26年度		H27年度	Н	<mark>28年度</mark>	700	H29年			H30年度	0.000		
	予	(b) 予算現額		3,700 3,700	8,700 8,700		-	700 700		12,600 6.000			1,740		
	算 (c) 増減額(b		G	0	0,700		0,	0		<b>▲</b> 6,600			4,260		
3. 维加	<del>√+</del> k	(d) 繰越額	_		_		_		_				1,200		
予算額 · _ 執行額	沈	A. 計(b+d)	8	3,700	8,700		8,	700		6,000			1,740		
【単位:千円】	-	B. 執行済額	5	,460	4,140		3,	600		4,200			510		
(「交付金」+ 「市町村負担」		うち交付金充当額	4	,368	3,312		2,	880		3,360		408			
ベース)	,	欠年度繰越額													
	執行	万率 (%) (B/A)	6	2.8%	47.6%		41	1.4%		70.0%			29.3%		
	予!	算の状況の説明	航空会社の事情にまた、運休期間が利							事業費を4,26	0千円	]減額した。			
								達成	状況						
		H30活動目	票(指標)	H27年度				H28年度 H29年度 H30年度							
		船舶航路欠航等に -ター支援の実施	よるヘリコプター	目標	(  支援	)	( 支持	支援 ) (		支援 )		支援	)		
				実 績	支援実施	te	支援実施			ī援実施 支援実施			į		
活動目標 (指標) 及び達成状況				目標	(	)	(	)	(	)	(		)		
				実 績											
	達成状況説明	慶良間空港~	那覇空港間の運行	了便数17回分		援を実施	施した。								
		H30成果目標	票(指標)		基準値 ( 年度)	Н	29年度	H30	0年度	R1年度		目標値 年度			
	なるイ	ヽリタクシーの運行	抗時等に代替手段と 補助を行うことで、 (80%以上)を含め	目標	(	(	80% )	(	80% )	(	)	( –	)		
	利便性が確保されたか(80%以上)を含め、 アンケート調査により、当該事業のあり方を 検証する。		実績			89%	;	80%							
成果目標 (指標)				目標	(	) (	)	(	)	(	)	(	)		
及び進捗状況				実績											
	進捗状況説明	アンケート調査	を実施し利便性が確	保されたと回	答した割合は80	0%であり	り目標を達成	えすること	ができた	•					

## 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)

**改善余地の検証**(効率の更なる向上の視点)

取組の

検

証

・利用者アンケートでの満足度は高く、村営船舶の代替手段として非常に高い評価を得ている。

・他の離島も同様のスキームで補助事業を行っていることから、提供可能なサービスの量が需要に追い付いていない。

エクセル社の予約電話がなかなかつながらない、機材が1機だけのため、乗れないことが多いといった意見が多い。

・平成30年は夏季の高速船欠航率が例年以上に高く(7月~9月 欠航率 28%)、本事業が休止されている間、村民・観光客からは早期の再開を望む声 が多く聞かれた。

・評価が高く、観光振興面でも村民生活にも定着しているだけに、「乗りたいのに乗れないことが多い」という現実を改善する必要がある。

### 今後の取り組み方針

予約電話対応、機材繰りなど補助対象企業の内情をできる限り公開してもらい、改善の努力を共に行う必要がある。 一括交付金終了後のサービス継続について検討する時期に来ており、定期運航のニーズも高いため、村内観光関係者、運航会社との意見交換機会を増やしてい く。

### 資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費		
510	510	408	102	0		

 座間味村
 補助、負担金
 エクセル航空株式会社

 510千円
 510千円

船舶欠航時ヘリコプター チャーター1フライトに対する 運賃の一部支援

資	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
使金	0	支出先の選定方法は妥当か。	・県内においてヘリコブターによる輸送業務を行う事業者は当事業者しかなく妥当である。
の流点れ	0	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	<ul> <li>・不用額が1,230千円発生しているが、30年度は航空会社の諸事情により 約7ヶ月利用できなかった為であり、予算規模は適正であると考える。</li> <li>・受益者負担は村の高速船の片路運賃となるよう設定されていることから</li> </ul>
検費	0	受益者との負担関係は妥当であるか。	<ul><li></li></ul>
価目・	0	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	類により確定しており、適正であった。

市町村名		座	間味村																		
		平成 3	〇年度	医沖縄排	長興特別	川推	進交	付釒	金事	業 (r	声町	村	分)検	証シ-	- I	- [4	〉表用	]			
事業番号 · 事業名	3	3-2		座「	間味村自動	車航	送運賃	低減	化事業	Ę				21世紀			第	3章-	3—(11)	)ーア	
		ļ	Alle I I	rm =m		事	業実施	ī			o +			林計画記			交通	<b>•</b> 生活	コストの	の低減	
担当部課名			産業振!	<b>興</b> 課			定)年		平成:	25~숙	5和3≤	‡度	沖	選振興基 該当賃		一		]	<b>Ⅲ</b> −9		
事業内容	離島	∳住民の和	便性向上	:及び高い3	交通コストの	の改善	きを図る	ため	、高額	である	本島、	. 座間	間味村間	のフェリ	一車	.両航边	に係る遺	重賃の·	一部を言	支援する。	0
効果発現年度	ı	■当年度	:	□後年	丰度(	年度	隻)														
実施方法	[	]直接実	施	□委託	■	補助		□負	担		□その	の他	(	)							
	_			Н	26年度		ŀ	-127年				H28	年度			H29年/			H30⁴		
	予	(a) 当初				,870				542				,076			3,843			4,4	
	算の	(b) 予算	·現額 ·額(b-a)			,085				100 558				,635 559			3,843			4,4	0
	状	(d) 繰越				,213				336			_	339			- 0				_
予算額 • _ 執行額	況		† (b+d)		3,	.085			3.	100			3.	.635			3,843			4,4	62
【単位:千円】		B. 執行	済額		3,	,083			3,0	090			3	,598			4,326		4,337		
(「交付金」+ 「市町村負担」		うち交付	金充当額		2,	,466 2,472					2	,878			3,460		3,469		69		
ベース)		次年度網	越額		_				_			-									
	執	行率(%	) (B/A)		9	9.9%			99	9.7%			9	9.0%			112.6%			97.	2%
	予 	算の状況	の説明	当初で予	定していた	:台数统	分の補	助を執	執行する	ること	ができ	、不	用額は1		ことと <mark> 比状況</mark>						
		H	30活動目標	墂(指標)					H27	7年度			H28年	<u></u> 手度		H2	9年度	Т	H30	 0年度	_
	<b>.</b>	<b>***</b> *********************************	こう ほぶん	· 士 [4		目	標	(	支援	の実施	Ē)	(	支援の	実施	) (	支援	の実施	) (	支援	爰の実施	)
	半叫	加.达.连	10万円3.703円1	· 文版		実	績		支援	の実施	1		支援の	実施		支援	の実施		支援	の実施	
活動目標 (指標) 及び達成状況						目	標	(			)	(			) (			) (			)
						実	績														
	達成状況説明	相次	ぐ台風の	影響で例	年よりも船	船の	欠航か	が多か	かった	が、概	ね目	- 標を	達成で	きた。							
		H	30成果目标	標(指標)					基準( 年)			H28	年度	H2	29年	度	H30 <b></b>	F度		目標値 年度)	
	車輸	送費補助	を行うこと	い、フェリ で、利便性	生が確保	目	標	(		)	(		)	(		)	( 80%以	上)	(		)
				含め、アン <sup>を</sup> らり方を検記		実	績		/								未実	施		/	
成果目標 (指標) 及び進捗状況		考指標】 {台数				目	標	(		)	) ( 385		35 )	(	490	)	( 644	)	(		)
						実	績		/		501		01	606			617			/	
	進	例年。 4月27 アンケ		1台、6月57	多く、目標 <i>台</i> 台、7月52 <sup>-</sup>												2月54台、	3月50	3台		

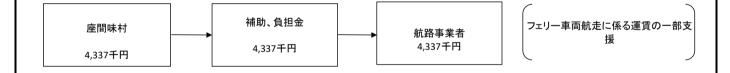
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	<b>改善余地の検証</b> (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・例年よりも欠航が多く、目標台数の車両航送を支援することができなかったが、それでも目標に近い実績となり、沖縄本島での交通手段の確保、車検整備などの経済的負担の軽減などを図ることができた。 ・年々、住民への認知度は上がっているが、それに伴いフェリーの車両予約が取りづらくなっているため、今後、大幅な利用者数増は難しい状況にある。・利用者アンケートは実施できなかった。	・フェリーの積載可能台数は決まっている為、積載車両の平準化に向けた取組を検討する必要がある。また、利用の多い月と少ない月の差がある。 ・利用の多い夏季繁忙期(7~8月)についてアンケート実施を検討していたが、台風による船舶の欠航が多かったため実施しなかった。

・フェリーでの車両航送を利用する際は、予約を早めに取るよう住民に呼びかけることで、予約が取れない場合でも別日に予定を変更しやすくし、積載を平準化することでさらなる利用者増に繋げる。また、利用の少ない月の自動車航送の利用を目指し積極的に周知を行う。
・9月~11月(3か月間)の期間を設け船舶窓口や船内でアンケートを実施し、台数の実績と併せ満足度等調査する予定。期間を区切るのは、補助台数が多く集計

事務の繁雑さが予想されるため。

**資金の流れ** (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象	交付金	市町村	交付対象
	事業費	充当額	負担金	外経費
4,337	4,337	3,469	868	0



資	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
使金金の	0	支出先の選定方法は妥当か。	・支出先については、航路事業者が1事業者しかないため妥
の流 点れ		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	当である。 ・予算規模は増額があったものの概ね妥当である。
検評費		受益者との負担関係は妥当であるか。	・受益者については、5割を負担し実施要綱どおりの負担割合であり、事業内容からも妥当だと考える。
価目・		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・座間味村事業者航送運賃低減化事業については実施要網に定めた額を執行しているので妥当だと考えられる。

市町村名		座間味村																	
		平成30年月	<mark>隻沖縄振興特</mark>	別推	進交	付氢	金事業(	市	町	村乡	分)検	正シー	- ト	[4	<b>込表用</b>	]			
事業番号	3	3-3	座間味村離島食	は品・日)	用品輸送	送費等	等支援事業	į.				21世紀			第	3章-	-3-(1	11)ーア	7
		<u> </u>		4	業実施							計画該			交通	₫•生活	活コス	トの低	減
担当部課名		産業振	興課		定)年度		平成28	~30	)年度	Ę	沖縄	振興基 該当箇		針			Ⅲ-9		
事業内容	離島する		活コストの低減を図	るため、	. 沖縄本	島か	ら座間味材	村へ	輸送	され	る食品も	や日用品	等 <i>0</i>	)輸送:	経費及び	作業	経費の	D支援を	を実施
効果発現年度	l	■当年度	□後年度(	年原	隻)														
実施方法	[	□直接実施		■補助		口負			その										
	_	(a) 当初予算額	<b>28年度</b>	3,519		<mark>29年</mark>	度 4,033			30年	F度	542		31年度	Ę		32	2年度	
	予	(b) 予算現額		3,519			4,033					542							
	算の	(c) 増減額(b-a)		0,515			0				0,0	0							
7 Mr. 45	状況	(d) 繰越額	_							_	_								
予算額 · _ 執行額	沈	A. 計(b+d)		3,519			4,033				3,5	542							
【単位:千円】		B. 執行済額		3,414			3,353				3,2	234							
(「交付金」+		うち交付金充当額		3,731			2,682				2,	587							
ベース)		次年度繰越額	_			_				-	-								
	執	行率(%)(B/A)		97.0%			83.1%				91	.3%							
	予	算の状況の説明	不用額の308千円	は輸送	実績が	当初 <sup>:</sup>	予測より下	回っ	たこ	とに	よるもの	である。 <u>達成</u>	<u>√+</u> ;;;	1					
		H30活動目	標(指標)					_			29年月		1/1/1		 年度	$\overline{}$		31年度	F
					177													01千茂	
	+ 4 + 1	野事業者(座間味村) 経費の補助	)へ対象品目に係る		標	(	支援の実	・他	)	(	支援の	実施)	(	文援	の実施	)	(		,
	TI19 XC	14T X 47 [1118]		実	績		支援の実	施			支援の	実施		支援	の実施				
活動目標 (指標) 及び達成状況				目	標	(			)	(		)	(			)	(		
ZO ZZVI				実	:績														
	達成状況訪明	は 離島輸送による	ら生活コストを低減す	トるため	の支援	を実	-												
		H30成果目	標(指標)				基準値 (27年度)		ŀ	128	年度	H29	9年月	ŧ	H304	年度		目標	.値 度)
	生活	が	いて沖縄本島を100 標における事業実が	ין ע	標	(		) (	価村	各差の	の縮小 )	( 価格	差の	縮小)	( -3.7オ ( ント以	<sup>代</sup> イ (下)	(		)
		の差ー3.7ポイントリ			: 績	_	/		価格	各差	の縮小	価格差	差の網	宿小	-14.7ポ	パイント			/
成果目標(指標)				B	標	(		) (			)	(		)	(	)			
及び進捗状況				実	: 績		/	1											
	<b>進捗状</b> 沥訪師	沖縄本島 回る値下げ 成23年度	を100とした場合 はできず、対前 雑島指数142.77	年度上	上では	沖糸	本島と	離島	島の	価	格差は	開いて							

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	<b>改善余地の検証</b> (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	商品全体で値引くため、1品あたりの低減率が低く、値引きの効果が実感しにくい状況がある。	値引きシールやポップを活用してどれだけ値引きされているか分かるように 表示して、住民へ値引きの実感度を高める工夫が必要である。

事業実施前(平成23年度)と比べて、沖縄本島との価格差は縮小しており事業効果は現れている。 今後は、登録事業者側と、住民への認知度、実感度を高めるための工夫を行う。

**資金の流れ** (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
3,234	3,234	2,587	647	0



食品・日用品等の 輸送費補助

資	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
使金	0	支出先の選定方法は妥当か。	・支出先については、航路事業者が1事業者しかないため妥当である。
の流点れ	0	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模は308千円の不用額があったものの概ね妥当である。
検、評費	0	受益者との負担関係は妥当であるか。	・受益者との負担関係については、本事業の目的からも妥当 だと考える。
価目・	0	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・本島との価格差を縮小し、離島における定住条件の整備を 目的としているため妥当だと考える。

市町村名	座	間味村																		
	平成 3	0年度	沖縄振興	特別	推	進交	付	金事業	市	町	村分)	検証	Eシー	- <b>-</b>	[4	〉表用	]			
事業番号	4-①			教育環	環境3	充実事	業						1世紀			第	3章一	-3-	(11)-	-イ
担当部課名		教育委員	<u></u>			業実施		平成28~3	0年1	<b></b>			計画該 長興基			生活環境福祉にお	ける住	民サ·	ービスの	
III III III III III		7/1/2/2			(予)	定)年月	E .	1 /2/20 0	- 17		•		該当箇		<b>P</b> 1		Ⅲ-	-3-	<del>-</del> (1)	
事業内容	学外で学びたし 『村営学習塾』		の学習機会をそ	確保し、	、当	該児童	生行	きの学力向.	上を	図る	ため、We	eb会i	義シス <del>-</del>	テムで	を用い	たオンラ	テインう	贝方	向授業	を行う
効果発現年度	■当年度		□後年度(	4	年度	Ę)														
実施方法	口直接実施	施	■委託	□補	補助 □負担 □その他			)他(	)											
			H28年度			F	1294	年度		ŀ	H30年度			Н	31年	度		ŀ	H32年原	支
	(a) 当初 <sup>-1</sup>			7,81	-			16,761				16,08								
	算			7,81	-			16,761				13,90								
	の (c) 増減額 状 (c) 増減額				0			0				2,17	76							
予算額 · 執行額	況						_	<b>-</b>			_									
執1丁韻 【単位:千円】	A. 計	` '		7,81	-			16,761				13,90								
(「交付金」+	B. 執行》	<del></del>		5,96				6,547	ļ 			10,70								
「市町村負担」 ペース)	うち交付金			4,77	5			5,237				8,56	52							
	次年度繰 執行率(%)			76.4	0/			39.1%				77.0	10/							
	**************************************	(B/ A)		70.4	-70			39.1%				77.0	J70							
	予算の状況	の説明 フ	下用額3,204千F	円は授	業直	[前キャ	ンナ	セルによる軸	丸行:	残とな	<b>ぶる</b> 。									
	H3	0活動目標	(指標)										達成	状況						
								H28年	芰		H2	29年度	ŧ			0年度			H31年	- 度
	オンライン授業	きの実施			目	標	(	賃金職員 講師派遣			(賃金職	戦員4~ 5派遣2		(	名	哉員4~6 講師派		(		
	賃金職員 4~	√6名														≧2名 □ □ □ □ □	-			
	講師派遣 2名	1			実	績		賃金職員 講師派遣				職員(				職員7名 派遣2名	- 1			
活動目標 (指標) 及び達成状況					目	標	(			)	(		)	(			)	(		)
及び建筑状况					実	績														
	ル除く	()。	6/5、阿嘉・慶 員)は座間味‡		-													<b>ンた</b> (	——— 〔直前 <sup>=</sup>	キャンセ
	НЗ	0成果目標	(指標)		/			基準値 ( 年度)		ŀ	H30年度		R1	年度	:	R24	年度			標値 年度)
			学習塾で実施さ		目	標	(		)	( -1	0点以内	) (			)	(	)	(		)
		童生徒との	こおいて、全国。 平均点の差を <sup>-</sup> 。		実	績					-8.8点									
成果目標 (指標) 及び進捗状況	グに対する関連	心が高まった -ト調査によ	行い、プログラ: たか(80%以上 り、当該事業 <i>の</i>	.)を		標績	(		)	( 8	0%以上 76%	) (			)	(	)	(		)
	全国平 た(全)	平均正答率( 国平均正答 、プログラミ	₹・慶留間拠点。 62.4点に対し、₹ 率との差マイナング授業の関ル 達成には至らな	本村平: ナス10点 心に関	均正 点以 して	答率(a 内)。	‡53	.6点となり、	全国	国平均	]正答率[	こ対し	、てマイ			-				

### 推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) 改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) ・4月~8月の授業においては、座間味島拠点、阿嘉・慶留間島拠点において 取 ・夏休み時期においては、参加者がほぼおらず、沖縄本島への塾へ通う生徒 も、受講していない学年があり、整が稼働していない日が多々あったが、9月 からプログラミング授業や英検対策授業、また、対象学年を小学4年生まで広 ・夏休み時期においては、参加者がほぼおらず、沖縄本島への塾へ通う生行 等も見受けられ、児童・生徒が積極的に参加するよう、授業内容等において ・夏休み時期においては、参加者がほぼおらず、沖縄本島への塾へ通う生行 ・夏休み時期においては、参加者がほぼおらず、沖縄本島への塾へ通う生行。 組 の 改善する余地がある。 げたことから、各学年の参加者増につながった。 検 ・また、9月に行った時間割の変更時において、交付決定を受ける前に始めた 授業(プログラミング・英検対策)に関しては、交付対象外経費としたことから、 証 ・また、毎年問題となる、直前キャンセルに関しても、参加児童生徒の保護者 に対して支援員による電話連絡等を行い、昨年度と比較して、直前キャンセ 当初の時間割の検討を行う必要がある。 ルとなった授業も減少した。 今後の取り組み方針

・今年度、当初の参加者がほとんどおらず、9月に時間割の修正を行い、参加者を募った。 結果として参加者は増えたが、年間のテキスト料金以外、無償で行ったこともあり、保護者においても必ずしも塾に通わせるという意識も低く、一方英検等の資格取 得及び高校入試対策等について関心度は高いが一過性の事となり、そもそも本来の塾としての機能が成り立たなくなると考え、今年度において事業終了とした。

### 資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
13,808	10,702	8,562	2,140	3,106



授業委託の実

直前キャンセル及び 対象外授業分 (交付対象外経費)

ž	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
使金	) (	支出先の選定方法は妥当か。	・授業実施委託はプロポーザル方式で選定しており、妥当で
の記点を	0		あったと考えている。 ・予算規模は事業内容に見合った執行となっており、適正な
検評す	<u> </u>		規模であった。 ・費目、使途については、授業実施目的に即し、必要であると
価目		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	判断した。

市町村名	Į.	座間味村											
	平成(	3 0 年度	度沖縄振興特別	l <mark>推進交</mark>	付金事業(	市町	付分	)検証	シー	- <b>-   [</b> :	公表用	]	
事業番号 · 事業名	5-①		座間味村平和	和・未来プロジ	ジェクト事業			沖縄21				第3章	1-(5)-ア
771				事業実施				基本計	画該	当箇所 	文化資源	原を活用	まちづくり
担当部課名		総務・福	ā祉課 ————————————————————————————————————	平成30~令和2年度			更	沖縄振興基本方針 該当箇所			Ⅲ-3-(2)		
事業内容	本村で起き	た戦争事実	を後世へ伝えるため、	. 文献•書籍•	体験者証言をデ	゙゙ジタルこ	コンテン	ノツ化し平	和発	信の取り	組みに活	·用する。	
効果発現年度	口当年月		■後年度(令和										
実施方法	□直接領	実施 		補助	□負担	□そ(	の他	( )	I				
	(a) 当:	初予算額	H30年度 19,	.043									
	<b>Z</b>	算現額		,043									
	の (c) 増	減額(b-a)		0									
予算額 · 執行額	状 (d) 繰;												
【単位:千円】		計 (b+d)		,043									
(「交付金」+ 「市町村負担」	B. 執行	行済額 一 付金充当額		,987					ļ			<b></b>	
ベース)	次年度		10,	,189									
	執行率(9		9:	9.7%									
	マ質の壮	この芸田	て 四 数 E の T 田 I = へ I	・ナル素紅の	コ +1 栞/- トス+	へった:	7						
	予算の状態	況の説明	不用額56千円につい	八ては安託の	人礼残によるも 	<i>い</i> でめ <sup>4</sup>	ნ. 						
		····	T# (11:1#)				達成	状況					
	H30活動目標(指標)				H30年度	Ę		H31年度		R	2年度		
	士四=妣≠1-	L7 + 1 /	~ ± 1 1 ±	目標	(実施	)	(		)	(		) (	)
	専門諏石に	よるチームの	か立上げ	実 績	未実施								
	村全世帯へ	の聞き取り	調査	実 績	( 実施 一部実施	) ħ	(		)	(		) (	)
		公文書館及び平和祈念会館での資料収集			(実施	)	(		)	(		) (	)
	の実施	0 1 18	AM ************************************	実 績	実施								
活動目標(指揮)	県内マスコミ	ミ各社での資	<b>資料収集の実施</b>	目標	(実施	)	(		)	(		) (	)
及び達成状況				実 績 目 標	調査実施	<u>ti</u>	(		)	(		) (	)
		び古本等の		実 績	実施								
		[門チーム <i>0</i> 見送った。	り立上げについては	、計画当初	必要と考えてし	いたが、	今年月	度は聞き	取り記	周査・資 料	料収集で	あること	とから不要と考
	達 明	き取り調査	Eについては、全世帯 いく中で、戦争当時										
	大 実施	施した。											
	況 価格	各等のリスト	での資料収集につい トアップを作成した。				–						
	明にあ	あたり使用さ	での資料収集につし された映像の提供元	この調査を行	い、村に関す	る資料に	こつい	て調査を	行つ	た。			
			の収集については、 お申し出により書籍			調査し、 	書籍	名や著者	、出	版社、価	格等のリ	ストを( 	作成した。また、
		H30成果目			基準値 ( 年度)		H30年/	度	H31	年度	R24	丰度	目標値 (R2年度)
	<b>声册⇒≠</b> /-	L7 T 1	O + L L i	目標	(	(	実施	) (		)	(	)	( )
	専门畝石に	よるチームの	ル立工()	実 績			未実施	色					
	現地調査の	(宝施		目 標	(	(	実施	) (		)	(	)	( )
	2020 III E V			実 績		1	調査実	施					
成果目標 (指標)	県立図書館	(等での資料	の収集	目標	(	,	実施	) (		)	(	)	( )
及び進捗状況				実 績		.,,,	トアツ 1778件						
		等を対象と	したデジタル資 参加者:100人以上	目標	( )	(		) (		)	(	)	100人以上
			立上げについては、						44.4		- 7		***
	状 証言 労場	言映像収録で 避難ルート、i	いては、戦争体験者 では、村出身で本島右 戦跡地、記念碑等に	E住の方や当 ついても調査	時村内へ派兵さ を行い今後の時	れている。	た方を を見振	含め、16 え、撮影	名の を行っ	証言収録 oた。	を行った	。証言に	上がった防空壕
			:ついては、沖縄県平 資料について1778件を			書館、玢	就球大 <sup>生</sup> 	字附属図	書館	ょとの所蔵	或資料や	村に関す	の戦争関連記

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	<b>改善余地の検証</b> (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・今年度目標から専門チームは不要と当初に判断すべきであった。 ・証言収録の実施にあたって、体験者の高齢化や戦争を思い出したくないなどの理由から承諾を得ることが非常に困難であった。 ・資料についてリストアップしたが件数が多く、内容の全てをホームページに掲載することが難しい。	・証言収録については凄惨な戦争体験であり非常にナイーブなものであることから、断られた方々への再度の取材交渉は難しいものと考える。 ・すべての資料をデジタル化しホームページに掲載するには件数が多く難しいため、資料内容の精査し一部資料を掲載、または資料情報(資料名、著者、村に関する記載ページ、所蔵場所等)をアーカイブとして掲載するなど、ホームページへの掲載方法を検討する必要がある。

- ・次年度においては、今年度収集した各種資料等のデジタル化や体験者証言映像の編集、戦跡パンフレット・マップ製作、戦跡・史跡等の物品記録集の製作を行 う。 ・資料収集 ・体験者証言映像の編集 ・各種資料のデジタル化 ・戦跡マップ等のコンテンツ製作

**資金の流れ** (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村負担金	交付対象 外経費
18,987	18,987	15,189	3,798	

座間味村 委託料 株式会社 サン・エージェンシー 18,987千円 18,987千円 18,987千円

基礎調査・情報収集 ○現地調査・フィールドワーク ○現存資料の情報収集

使途の点検評価 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	0	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は事業内容から公募型プロポーザル方式で 選定しており、妥当であったと考えている。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目 的に即し、必要なものであったと判断した。
	0		
	_	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	0	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	